

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム いわいずみ

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393000047		
法人名	医療法人 仁泉会		
事業所名	グループホーム いわいずみ		
所在地	〒027-0508 岩手県下閉伊郡岩泉町尼額字下坪41-2		
自己評価作成日	令和6年9月10日	評価結果市町村受理日	令和6年11月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhvou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhvou)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和元年11月に自治会と災害時の応援協定を締結したことで、自治会、消防団、近隣住民等は警報が発表になれば駆けつけて頂だける支援体制も整っており、火災の際も自治会長と消防団の方に緊急連絡網に登録いただき連絡体制も構築されている。地域の方々や近隣住民の方の防災意識が高く、台風や大雨の時に備える毎年の訓練にも、すすんで参加して頂き、日頃から地域住民と密着し交流を図っている。今年の台風第5号の際に高齢者避難が発令になったことで、避難することになり、訓練後でもある事で協力体制も円滑に避難できた。また、地域との交流の場になるように、月一回認知症カフェを開催し、町民や認知症を持つご家族に理解して頂くため、ミニ勉強会を、行政と連携を図り、会を重ねる毎に、参加者も定着してきた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は尼額地区の小本川沿いに位置している。母体施設や系列事業所が宮古市中心に所在しており、非常時等有事には、地域の協力、応援が欠かせない。地区自治会とは災害時の応援協定を締結している。避難訓練には地区自治会、消防団が参加しており、地震発生時には地域住民が駆け付けてきていただいている。日常的に野菜等の食材の差入れを頂いたり、事業所と地域の強いつながりを感じられる。コロナ5類に移行後、玄関での面会を継続しているが、今年の敬老会には地域住民や家族を招いて100歳を迎えた利用者の方々の長寿をお祝いすることができた。毎月公民館での認知症カフェを開催し、認知症の理解を進めるとともに地域との交流に取組み、町内の居宅介護支援事業所ケアマネジャーと連携し、緊急のショートステイの受け入れを行うなど積極的に地域のニーズに対応している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号		
訪問調査日	令和6年10月18日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で情報を共有し実践できている	事業所理念については、業務改善会議の場で、職員が理念を確認する機会を設け、併せてスタッフルームに掲示している。運営推進会議で家族からの意見として、理念の中に「地域住民と共生」を盛り込むことを提案されたことを踏まえ現在の理念としており、特にも地域との連携や協力体制が確立されていることを常時再確認している。防災面での地域住民の協力意識も高く、理念のより具体的な取組みをその一環として明記し、職員間の共有にも努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	つながりを大切に、地域の一員として自治会の会費等は納め、認知症カフェはコロナ感染対策の為公民館に移し毎月開催し、体調を見て利用者も参加し交流できている。久しぶりに、敬老会も短時間ではあるが地域の方々ご家族等参加し、会食なしで開催できた。	地域の自治会に加入しており、草取りなどの清掃活動には顔を出すようにしている。コロナ禍以降、地域の小学校、子供会等との交流を控えてきたが、家族からの希望もあり、地域住民の方も招待して敬老会を開催でき、今後も、子供会との交流についても工夫しながら再開につなげたいとしている。認知症カフェは、施設が主体となって、毎月地域の公民館で開催しており、地域との交流の機会にもなっている。地域の方々や家族から野菜や果物等の食材の差入れも多く、施設広報を通して地域に紹介しており、夜間の地震発生の際には、地域の方が様子を見に駆けつけてくれるような関係性を保っている。母体施設が宮古にあるため、非常時でも地域とのつながりの強さを感じている。岩泉町から町内全世帯に配布されている、テレビ電話も兼ねる情報機器の「Pちゃんネット」から様々な情報が確認でき、家族とテレビ電話で会話される利用者もいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェでは、Pちゃんネットやチラシ等でお知らせし、地域の方々に参加いただき、利用者も体調を見て参加し認知症の理解や支援を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について 報告や話し合いを行い、そこでの意見を サービス向上に活かしている	コロナ対策をしながら、ホームで開催できている。 メンバーの入れ替えがあり、意見の交流を持ち サービスに活かしている	会議は、対面による会議開催として、家族にも案 内している。出席できない家族もいるが、会議資 料は全員に配布している。今年の敬老会の開催 については、100歳の利用者のお祝いもあり、家 族委員からの提案を受けて実施した。非常用サイ レンの音が地域には聞き取りにくいとの声を受 け、スピーカーを聞こえる場所に設置した。地区 子供会から夕涼み会での交流を希望されたが、 感染防止の視点で交流を控えているが、委員か らは感染対策をとるなど交流再開に向けた検討 を求められている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取り組み を積極的に伝えながら、協力関係を築くよ うに取り組んでいる	申請者の相談や運営に関しての相談等協力体 制ができている。ケア会議にも参加し情報交換で きている。	町担当課、地域包括支援センター担当者とは、 運営推進会議も含め随時連携をとり、入居希望 者情報や認知症カフェの実施等での情報交換を 行っている。地域ケア会議には、管理者が出席 し、入居希望や困難ケースの相談などに対応し ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着 型サービス指定基準及び指定地域密着型 介護予防サービス指定基準における禁止 の対象となる具体的な行為」を正しく理解し ており、玄関の施錠を含めて身体拘束をし ないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会は、リモートで参加し現在の情 報を確認し業務会議で職員全員に共有し実践で きている。夜間玄関は防犯の為施錠しているが、 日中は施錠せず自由に野外に出かけられてい る。離床センサーも家族から了承をいただき使用 して転倒予防に活かしている。	身体拘束廃止に係る会議は、法人内6事業所の グループホーム長により、3か月毎に開催してい る。法人全体での研修は、受講者が伝達、勉強 会などもリモート中心での研修を行っている。新 規採用職員研修を通して、全職員でスピーチロッ クなどの身体拘束について再確認している。法 人内の教育委員会が主導で、虐待防止に係る研 修も実施している。転倒の怖れがある利用者7名 の居室ベッド付近に、個々に異なるメロディーが 流れるセンサーを設置・使用し、職員が屋内の離 れた位置に居ても利用者個々の居室出入りを認 識できるよう、工夫を凝らしている。玄関の施錠 は、防犯の視点から、22時から翌朝5時までの夜 間のみに行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅 や事業所内での虐待が見過ごされること がないよう注意を払い、防止に努めている	月1回のリモートでの会議に参加し、参加できな いときは、会議録で確認し職員で共有できている。		

事業所名 : グループホーム いわいずみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は、利用されている利用者がいないが、以前利用されていた方がおり関係機関との情報共有ができており、学ぶ機会があったが、現在は、勉強会での共有となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	遠方のご家族には、電話で説明の上送付して質問や疑問等無いようにしている。契約時には、十分に説明し質問や疑問点等お答えしている。退所後の家族から、今後の相談等の対応もしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議、ケアプラン等で来所されたり、電話での会話の中でご家族等にご意見、要望を聞き、それらを運営に反映させている。ご家族内の関係性を踏まえて、トラブルにならない対応もできている。	家族からの要望や意見は、面会の際やケアプラン見直しの際などに、ケアマネジャーを中心にプランについての意見を伺うようにしている。玄関に意見箱を設置しているが利用実績はなく、意見、要望がある場合は、口頭で直接お話しをされている。今年の敬老会について、運営推進会議での家族からの提案を踏まえ、地域住民の方も招いて開催につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のほほえみ会議に参加し、業務収支会議の内容をホームの業務会議で報告し意見交換し、個人面談での要望や会議でも確認し反映できている。	毎月1回職員全員参加による業務会議を開催し、法人本部からの情報やグループホーム内の課題等を協議している。年2回、管理者と各職員の面談を行い、個々の目標設定、進捗状況を確認している。業務を進める上での悩み、不安、課題等を聴く機会を設けている。昨年、町内自治会から案山子の製作依頼があり「トトロ」の案山子を職員手作りで製作し、地域のこども園、公民館等に設置し好評を得ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	前もって希望休を聞き優先的に取得し、突然の有休も職員で補っている。各自得意とする能力を引き出せるよう色々な担当をもって、意欲的に仕事ができるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の力量に合わせ、新人研修や中途採用者の研修等機会を設け研修できている。ファーストステップ研修や認知症の専門の研修の実践者研修・リーダー研修等も、受けられるよう支援している。		

事業所名 : グループホーム いわいずみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	不定期のホーム長会議で意見交換したり、職員同士情報交換し交流を図っている。また、ケア会議で、他グループホームのホーム長と意見交換もでき情報を得ている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の調査や、入居時ご家族や本人に不安なことや疑問等を聞き安心して生活出来るよう職員間で情報共有し、担当を決め個々に対応し本人やご家族と信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に、不安なことや疑問等を聞き取りケアプランに取り入れ連絡等も密にし、入居の生活を報告し不安を取り除いて、安心して生活出来る関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員間で随時今必要としていることを確認し、まず対応してみるを実践し、申し送り等で情報共有し柔軟に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の下ごしらえや洗濯物の片付けのほか、利用者と職員と一緒に畑仕事を行う等生活歴の中での出来ることをやっていただき、時にはアドバイスを聞いて実践できる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話での会話や玄関先での面会等は、絶えることなく状況を報告し、遠距離からの家族の外出希望には、短時間出かけられるように支援し、関係を途切れることなく築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に面会に来ていただいたり、ドライブで見慣れた景色を眺め昔を思い出し、楽しんでいただいている。	天気の良い日などは、散歩の途中に近所のベンチに腰掛けて話したり、地域住民とのふれあいの機会にもなっている。コロナ禍以降、家族、友人の面会の機会も増えてきている。ドライブで三田貝道の駅、龍泉洞などに出掛けている。毎週、田野畑の福祉事業所によるパンの訪問販売があり、買い物の機会として、またおやつの時間として楽しんでいる。「Pちゃんネット」や携帯電話を持っている利用者も日常的に家族との連絡を取り合い、つながりを維持している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士を隣に座っていただいたり、孤立しないように職員が間に入り話を投げかけて話題を出し、利用者同士が会話が弾みような支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了したご家族が病院に入院したその後の相談にも対応しており、これまでの関係性を継続し支援している。短期利用者のご家族の相談にも、対応し支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスで、一人ひとりの思いや希望、また家族の意向を情報把握し、病気で食べられない利用者様には特別なメニューを提供し支援している。携帯電話を持参して入居した方は、以前はご家族に相談していた事を、ご家族より職員に相談された上でケアプランに取り入れたり、その都度対応変更できている。	言葉での意思表示が難しい2名の利用者は、表情や仕草から汲み取るようにしている。趣味の塗り絵や間違い探し、食器拭き、テーブル拭きなどの手伝いなど、本人の得意とする関心のあるものの機会を提供している。家族の思いと変化している利用者の現状との理解のギャップがある場合には、面会された際などに丁寧に説明し家族からの理解が図られるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	カンファレンスで生活歴を共有し、本人との会話の中で馴染みのものを把握して、ご家族からも確認し把握できている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自分のペースで好きな所で思い思いのことをしながら過ごしており、病気や体調不良時も車イスや押し車、杖などを、現状に合ったものを使用し対応している。居室で悩んでいる方には、職員が思いを静かに傾聴し話を聞いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人ひとり担当が家族に意向を伺い、カンファレンスや日々の申し送り時に意見交換し、見直しを現状に沿ってご家族にも相談し、利用者の思いを汲み取って、プランに反映している。	各居室担当者が、本人、家族からの意向を伺い、6ヶ月を基本にプランを見直ししている。ドライブや家族への電話などの、個々の希望をプランの内容に取り入れている。目標に対して各居室担当者がモニタリングし、全員で話し合いを持ち、プラン継続や支援内容の変更などを確認した上で、家族に説明同意をいただき、次期プランに反映している。日々の申し送りの際にも、変化や気づいた点などをケース記録、日誌に入力し共有を図っている。家族に対しても随時日常生活の変化などを説明し、区分変更を要する場合など期間を待たずにプランの変更を行うこともある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランの見直しや日々の生活の中で気づいたことは、情報交換し、共有出来ている。実践した結果を、申し送りやカンファレンス時に見直し、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	カンファレンス等で職員間で情報を共有し、継続出来る支援や見直し等は、本人の状況変化に応じてその都度話し合い、柔軟に共有出来ている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々に防災訓練等や運営推進会議に参加いただき入居者の現状を理解していただいている。、散歩や回覧板等を届けて顔なじみの関係を作り、近所の方々と会話も楽しまれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療では、日常生活で困っていることや体調不良を相談し、適切な医療を受けている。体調が悪いときは、職員が同伴受診したり、電話等で病状説明し服薬等適切な対応が出来ている。また、定期的に訪問歯科診療を受け、治療が必要なときはその都度対応していただき、口腔内を清潔にできている。	月1回、済生会岩泉病院から内科の、岩泉歯科による歯科の、各訪問診療を受けている。体調不良の際は、随時通院している。眼科、整形外科等町内の医療機関を受診している利用者は職員が同行対応し、町外の医療機関受診者は家族に同行対応して頂いている。家族とは、外部の病院受診の付き添いの確認や情報共有など、適宜確認をとって対応している。	

事業所名 : グループホーム いわいずみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良時の状態を、訪問診療時前に看護師等相談し、薬剤師にも服薬等についても個別の相談でき医師に繋げスムーズに治療でき、ご家族にも報告でき支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医師、看護師とも連携を取り、入院時ご家族・職員を交え医師や看護師と情報を共有し、退院に向けて、今後のことなど、看護師等と、連携相談できる関係ができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りはやっていないことを伝え、重度化に向けた話し合いは、早い段階からご家族に説明し、次に繋がる支援ができています。体調変化が見られた場合には、ご家族に説明し意向を伺いながら支援している。	入居契約の際に、看取りは行っていないことをお伝えし了解を得ています。介護度3に変更された時点で、家族には次の施設への入所申し込みをお願いしている。また、重度化が進んで、全面的に介助が必要になってきた利用者は、訪問診療の医師から家族に状態を説明して頂き、理解を深めてもらっている。状態が急変された利用者もあり、救急時の対応として、消防署立会いでAED操作等講習訓練を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	感染対策をし救急講習会を開催できている。急変時の対応等は施設内の勉強会等で連携、対応できている。AEDが新しくなった事で職員で使用確認し緊急時に備えている。		

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練や自治会との合同避難訓練は、災害時の避難誘導や連絡体制が整っている。令和6年の台風5号時には、高齢者等避難が発令になり、避難することとなり、訓練後でもある事で地域の方々の協力体制が的確に避難誘導でき、協力体制は築いている。	事業所は、洪水浸水想定区域内にある。地域の防災意識も高く、町として推奨している防災士資格を5名の職員が取得している。自治会長、消防団員の方には、非常連絡網に登録いただいております。地震発生等の非常時には自治会長が事業所に駆けつけてくれるなど、日頃から気にかけて頂いている。また、避難訓練には、自治会や消防団、地域住民にも参加いただいている。今年も、避難訓練後8月に実際に避難指示が出され、避難場所の町民会館まで避難を経験した。避難場所までの車での移動については、「利用者が車両への乗り降りがスムーズになるよう踏み台の用意」を助言され、実際の避難の際にも使用している。食料品や照明、エアベッドなど非常持ち出し用の物品は、事前にクリアケースに分別の上、ホール内の定位置に常時設置し、避難時に応援に来られる、自治会や消防団の方々にも見やすくわかりやすいよう工夫している。	毎年度計画的かつ定期的に、災害を想定した避難訓練に取り組まれているが、事業所自体が、小本川沿いに近接したところに位置している。水害等の自然災害を想定した訓練などから見えてくる課題や反省点を繰り返し検証・改善を行い、その結果を踏まえ見直ししながら、協力いただいている地域の自治会や消防団の方々も含め、更新した情報を常時共有されるよう期待する。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの生活パターンを把握し、トイレや入浴の声掛けは、気分を害さないように、言葉使いに気をつけ誘導し対応している。	排泄の意思確認の際は、小声で問いかけ、排泄の有無をジェスチャーで応えてもらうなど周りの利用者に配慮している。他の居室に入られる方がおり、廊下に導線をテープで表示し移動の目安にしている。禁止、制止を求める際の言葉掛けは、必ず禁止、制止する理由をつけ、声掛けするよう徹底しており、新規採用職員には、本部による研修も行っている。居室入口に暖簾を掛けるなど、一人ひとりの希望に沿ってプライベートに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生会では本人の希望のメニューでお祝いし、食事等肉や魚等嫌いな方には別メニューで食べられるようにしている。好みのテレビ番組は見逃さないように支援している。パン屋さんの購入も本人が選んで希望のパンを購入できるように支援している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム いわいずみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で過ごしたり、ホールでテレビを見て過ごしたり、外のベンチで過ごし、職員に外の状態を報告に来るなど、その利用者のペースで、本人の希望に沿った暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な散髪は、本人の希望も入れ散髪している。洗顔やクリーム等も、本人の希望のものを購入し自分で行き、身だしなみができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会では、利用者の好みのものを聞き、メニューに取り入れ工夫している。節目節目の行事食や季節のメニューを取り入れ、目でも楽しめる食事を準備し、畑の野菜も収穫して季節感を楽しんでいる。	献立は、1週間ごとに職員が作成し、週に2回買い物に出掛けている。家族や地域の方々から、野菜、果物、魚等食材の差入れも多くあり、柔軟にメニューに取り入れている。随時、管理栄養士にも献立内容を確認してもらっており、その上で、三食職員の手作りで提供している。利用者の誕生日には、希望を聞き好みのメニューで提供している。コロナ禍以降は外食はほとんど実施していないが、そのような中でもドライブに立ち寄り道の駅でソフトクリームを食べることも楽しみとなっている。毎食、テーブル拭きや野菜の皮むき、米研ぎなどの下拵えの手伝いをしてくれる利用者もおり、毎食2名以上の職員と一緒に食事をとっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	むせ込む利用者や義歯が無い利用者には、ミキサー食や刻み食、お粥を提供している。食事前には、お茶や牛乳等を10時・14時に提供し、水分量をパソコン入力して、その情報を職員間で共有している。水分量が少ない利用者には、自分の好きなものを提供し、ご家族から頂いたものを提供し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎月の口腔指導の注意事項を職員間で共有し、毎食後口腔ケアしその人に合ったケアを実践出来ている。痛み等ある時は、歯医者に相談し適切に対応して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して個人の排泄パターンをチェックし、声がけにも気をつけ、トイレで排泄できるよう支援している。声掛けにも応じない失禁してしまう利用者には、成功例を職員間で情報共有しトイレで排泄できるように支援している。	布パンツ使用1名、他の7名はリハビリパンツを使用している。排泄チェック表により適時声掛け、誘導している。失禁時は、周りに配慮して居室、トイレに誘導して、清拭、更衣してもらっている。失敗していて、清拭、更衣を促しても拒否される利用者があり、対応に苦慮している。ポータブルトイレは2名の利用者が使用している。スムーズな排泄のためにも、1日1回はヨーグルトや牛乳の提供を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排便を確認の上で、リハビリ体操やラジオ体操をしたり、また水分では牛乳を冷たくしたり暖かくしたり、そのほかヨーグルトを提供してみるなど、そのときの状況を把握し予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調に合わせての入浴もあるが、気の合う利用者同士や一人で入浴したい方等個別に対応し、菖蒲湯や入浴剤を使用しリラックスできるよう支援している。	週3回入浴できるよう、毎日午前にお風呂を用意しており、その結果、入浴後に洗濯した衣類が夕方には乾燥し、利用者が衣類の畳み方の作業ができるタイミングになっている。身体的特徴から入浴を拒否される方もおられ、声掛けや他の利用者と入浴のタイミングをずらすなどの工夫をしている。様々な種類の入浴剤や季節に応じ菖蒲湯、柚子湯を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッドの位置は本人の希望に合わせて設置し、照明等にも希望を取り入れ、寒い時には電気毛布やエアコンを使用し、暑い時は、スダレを使用したり、適切な温度を保ち、気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルに薬の情報は綴じてあり、医師や薬剤師からの情報は申し送り、状況に応じ薬の調整をし、処方された薬を確実に服薬できている。状況の変化は職員間で情報を共有し、次の訪問診療時に報告している。		

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎食後、食器拭きやテーブル拭きを率先して行っている。日常では、掃除や洗濯干し、洗濯たたみ、布巾たたみ、畑作業、雑巾縫い等、それぞれ自分の力を発揮できるように支援している。新聞も入居前に読んでいた新聞をホームに配達して頂き、居室でじっくりと読んで、気の合う利用者で意見交換している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩には出ているが、ドライブ等は、利用者から希望され出かけている。忘年会はホテルまで出かけての会食で、コロナ感染対策のため、利用者と職員だけではあったが、歌や踊り等楽しい時間を過ごせた。敬老会は、久しぶりに地域の方々にも参加頂き、盛大に盛り上がり利用者にも感動できるよう支援した。	日常の散歩のほか、時期に応じて、施設内にある梅・柿とり、さくらんぼやイチゴ、ブルーベリーの摘み取り等に出掛けている。ドライブの希望が多く、コロナ禍のピークが過ぎて以降外出の機会も増え、随時対応するようにしている。桜の時期には球場の花見にも出かけている。町の文化展には、毎年利用者の作品を出展し見学にも出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族に少額のお小遣いを届けて頂き、自分で管理している利用者は自分の希望するものをホームの買い物の時に購入している。来所するパン屋さんには、自分の財布から支払えるよう支援し、お金を所持していない利用者にはホームで立て替え、購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族より定期的に電話があり、会話したり、本人から掛けて会話出来ている。PちゃんネットでTV電話を掛けたいと希望し、顔を見ながら会話出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓からの太陽をすだれを立てかけて日差しを遮ったり、トイレの場所が分からない利用者の為に分かりやすく表示している。また、居室の入り口に暖簾やカーテンを使用し、居心地よく過ごせるよう支援している。行事には、お雛様やこいのぼり等を飾り季節感を楽しんでいる。	ホールは天井が高く天窓から陽光が差し込み、夏はエアコンが稼働しても暑い日がある。西日に対応して、窓にはすだれを掛けている。ホール壁面に、利用者の手形からとった貼り絵で干支の龍を制作し、掲示している。ホール内の一角には、小上がりのスペースのほか、炬燵が通年で設置しており、利用者には欠かせないもののひとつとなっている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム いわいずみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いの場所で気の合う利用者同士、ホールや玄関で過ごせるよう、イスやベンチ等を配置し、居場所に工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、ご家族や本人と相談しながら、使い慣れた物をご持参いただいている。ご家族の写真やテレビなど好きな時に見られるよう、携帯電話も持参し好きな時に家族にかけて会話できたり、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室には、洗面台、ベッド、クローゼットが備え付けてあり、家族や孫の写真、ラジカセや趣味の観葉植物や鉢花を育てられている方もおられ、一人ひとりに馴染みや興味のあるものを取り入れた部屋作りに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食事のトレーや食席、居室には名前が明記しており、本人が迷うことなく使用できている。建物内部はバリアフリーであり、トイレや居室の場所が分からない利用者の為に分かりやすく表示し、下足も本人が迷うことなく使用できるよう工夫している。		